

## 2019 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020 年 2月 27 日
研究・研修課題名	がんゲノム医療コーディネーター研修会(2019)
研究・研修組織名(所属)	病理部
研究・研修責任者名(所属)	荒木 剛(病理部)
研究・研修実施者名(所属)	荒木 剛(病理部)、上垣真由子(病理部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(研修会)
該当者名(所属)	荒木 剛、上垣真由子
学会名(会期・場所)、認定名等	がんゲノム医療コーディネーター研修会(2019)
演題名・認証交付元等	公益社団法人 日本臨床腫瘍学会
取得日・認定期間等	2019年6月23日(上垣)、2019年10月6日(荒木)
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

## 目的及び方法、成果の内容

## ①目的

がんのゲノム医療の実用化に必要な医療従事者として、がんのゲノム医療に関する遺伝子関連検査、患者・家族への伝え方、多職種との連携、意思決定支援等について必要な知識・態度・技術の習得を目指すことを目的とする。

## ②方法

第1回目：2019年6月22日(土曜日)・23日(日曜日) 品川シーズンカンファレンス  
研修者：上垣

第2回目：2019年10月5日(土曜日)・6日(日曜日) 品川 The GRAND hall  
研修者：荒木

## プログラム例(2019年10月5、6日)

## 1 日目

開始 終了 講義名

10:00 - 10:20 インTRODクシヨンおよび事前問題(20分)

司会：鈴木 達也(国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科)

10:20 - 10:40 がんゲノム医療の提供体制について(20分)

安藤 弥生(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)

10:40 - 11:40 がんの生物学・分子生物学の基礎知識(60分)

大木 理恵子(国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野)

司会：米村 雅人(国立がん研究センター東病院 薬剤部)

12:30 - 13:20 ゲノム医療で使用される用語の説明(50 分)

西尾 和人(近畿大学医学部 ゲノム生物学教室)

13:20 - 14:10 ドライバー遺伝子変化と分子標的薬(50 分)

大江 裕一郎(国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科)

14:20 - 14:50 遺伝子検査(30 分)

坂井 和子(近畿大学医学部 ゲノム生物学教室)

14:50 - 15:20 遺伝子パネル検査結果の活用方法(30 分)

高橋 秀明(国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)

15:20 - 16:20 遺伝医学、遺伝性腫瘍(60 分)

古川 洋一(東京大学医科学研究所 臨床ゲノム腫瘍学分野)

16:30 - 17:30 医療倫理と個人情報保護(60 分)

武藤 香織(東京大学医科学研究所 公共政策研究分野)

17:30 - 17:50 がんゲノム医療コーディネーターとしての活動について(20 分)

柳田 絵美衣(慶應義塾大学医学部 腫瘍センター)

## 2 日目

司会：鈴木 達也(国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科)

09:00 - 09:30 遺伝子変化の臨床的意義に関するエビデンスレベル(30 分)

武田 真幸(近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門)

09:30 - 10:30 患者さん、被検者の方々とのコミュニケーションのあり方を考える(60 分)

田村 智英子(FMC 東京クリニック)

10:40 - 11:40 遺伝子パネル検査におけるレポートの作業手順と読み方(60 分)

西原 広史(慶應義塾大学医学部 腫瘍センター)

司会：浜本 康夫(慶應義塾大学医学部 消化器内科)

12:40 - 13:10 がんゲノム医療コーディネーターCGMC が行う業務内容について(30 分)

武田 祐子(慶應義塾大学 看護医療学部)

13:10 – 15:10 事例検討(120 分)

浜本 康夫(慶應義塾大学医学部 消化器内科)

15:10 – 15:30 事後評価及びアンケート(20 分)

### ③成 果

がんゲノム医療コーディネーター研修会は、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、臨床検査技師など様々な職種の方々が参加する研修会であった。

研修内容は、がんゲノム医療について、遺伝子学から倫理、コミュニケーションなど様々な内容の講義を受けた。

その研修の中で、事例検討があった。各職種の方々とグループを組み与えられた事例について意見を出しディスカッションを行った。事例討論の中では、各職種でいろいろな専門的意見が出され討議された。がんゲノム医療は、それぞれの職種で役割があり、支え合いチームとして行わなければならないと実感した。

我々臨床検査技師のがんゲノム医療への携わりは、検査に提出する検体やゲノム検査に関する携わりが主になると考える。

適した検体が採取されているか否かの確認、患者さんへがんゲノム医療の検査について説明を行う事が臨床検査技師の携わりと思う。

今回研修を受けたことで今後、がんゲノムコーディネーター業務として、がんゲノム医療に携わり、患者や家族に対してがんゲノム医療についての検査説明や検査を安心して受けられるような環境を作るサポートを行うことができると考える。